

# 美々川だより

Bibigawa News Letter Vol. 11

平成 27 年 3 月 発行  
発行 / 北海道室蘭建設管理部

## 『第 14 回美々川自然再生技術検討委員会』を開催しました。

平成 27 年 3 月 10 日に「第 14 回美々川自然再生技術検討委員会」を開催しました。

当日は、平成 22 年度～平成 26 年度における過去 5 年間の自然再生の取り組み内容やその評価、今後の課題について議論されました。

その後、今後 5 年間の取り組み内容を示した「アクションプログラム 第 2 フェーズの進め方」について事務局から提案を行い、了承されました。この中では、平成 27 年度の事前調査終了後にウトナイ湖の湖水位を上昇し、湿地環境の再生を図る取り組みについても議論され、了承されました。

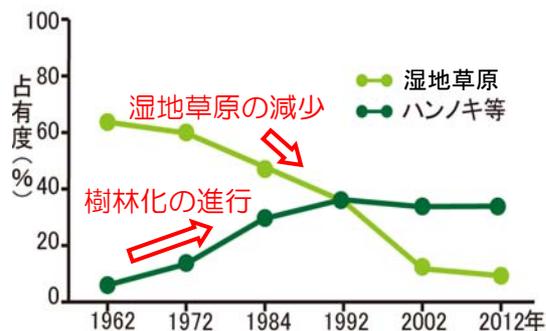


第 14 回美々川自然再生技術検討委員会の様子

## ■ウトナイ湖水位の上昇による湿地再生の取り組みについて

### ●ウトナイ湖周辺の変化

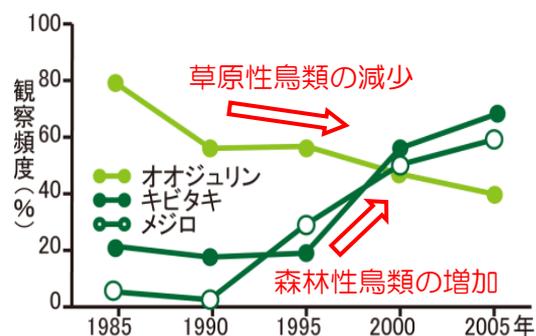
近年、ウトナイ湖では湖水面が縮小し、周辺の湿原が乾燥化しています。これによりハンノキ等の樹林が増加するとともに、ウトナイ湖周辺の鳥類にも変化が見られています。



北西岸の湖岸から内陸 70m 範囲の植生変化  
ヨシ等の湿地草原が減少し、ハンノキ等の樹林の拡大が進行しています。



ハンノキ林 (拡大が進行)



ウトナイ湖で見られる鳥類の変化  
周辺環境の変化を反映して、森林性鳥類が増加し、草原性鳥類が減少しています。

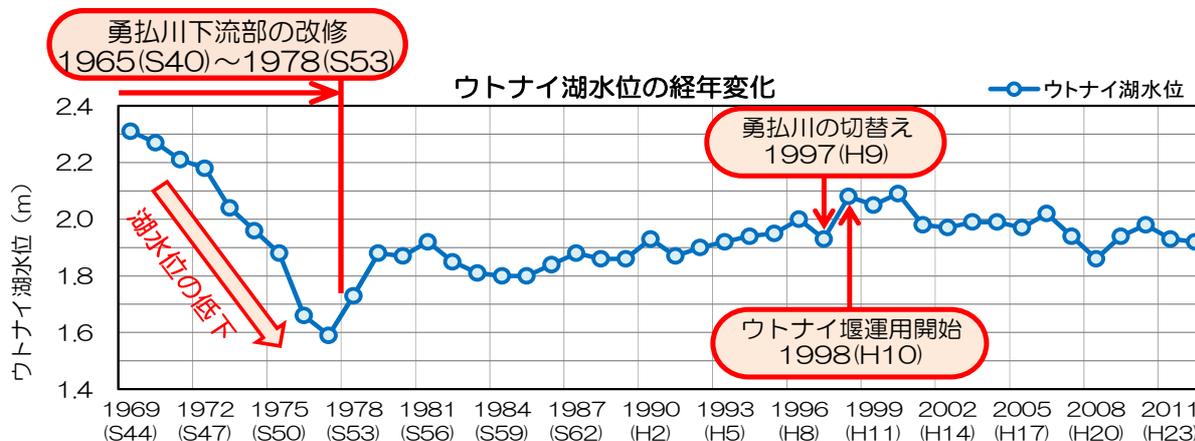


ヨシ等が生育する湿地草原 (減少)

## ●ウトナイ湖水位の低下

下の図はウトナイ湖の平均的な水位の経年変化です。現在の湖水位は、約 1.9~2.0m で管理しています。かつての湖水位は 2.3m という記録がありますが、河川改修等に伴い 1970 年代に 1.6m まで低下しました。ウトナイ湖の乾燥化の要因としては、湖水位の低下が考えられます。

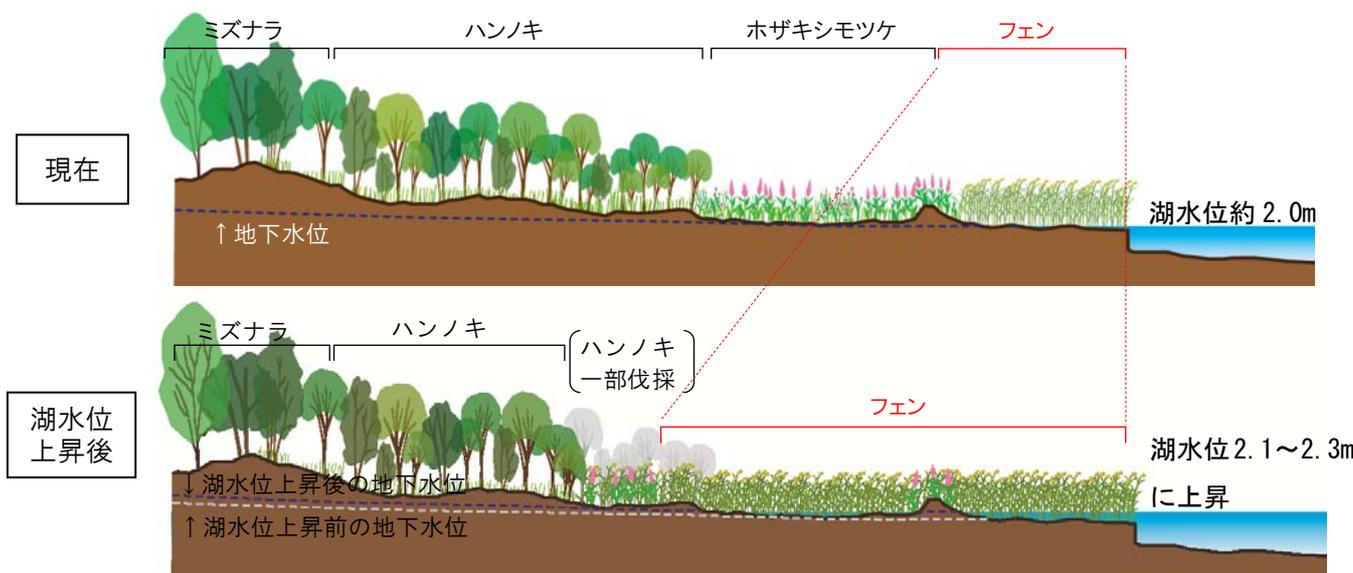
ウトナイ湖周辺の湿原環境の保全対策は、低下した湖水位をかつての水位に戻して、多様な植生環境を取り戻すことを目的としています。



## ●ウトナイ湖の水位を 2.1~2.3m に上昇し、湿地環境の再生に取り組みます

過去から低下したウトナイ湖水位を現状よりも上昇させ、湿地環境の再生に取り組みます。湖水位の上昇には工事は必要なく、ウトナイ湖の下流の「ウトナイ堰」の高さを調整することで実施できます。万一、不具合が生じた場合には堰を下げる対応も可能です。

湖水位の急激な上昇は、湿地環境に大きな影響を及ぼすおそれがあるため、段階的に実施します。まず、現状より 10cm 上昇させ湖水位を 2.1m に維持し、地下水位や植生の応答を確認します。将来的には、現状より 30cm 上昇させ湖水位を 2.3m に上昇する予定です。



湿地環境の再生の具体的な目標は、「フェン\*の分布適地の拡大」としています。

湖水位 2.1m におけるフェンの分布適地は、ウトナイ湖北岸面積の約 30%（現状は約 15%）に拡大すると予測しています。また湖水位 2.3m では、約 55%まで拡大すると予測しています（これは、自然再生の目標としている 1960~1970 年代の水準に相当します）。

※フェン：ヨシやスゲが優占する湿原群落



北海道

ご意見・お問い合わせ先

北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部苫小牧出張所

TEL (0144)32-3171 FAX (0144)32-3175